



音楽運動



日本音楽協会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp

2023日音協東京都支部コンサートに79名来場 初めての参加者も21名



オープニング



メイウィズ



ういみん



piggies の二人



狭石啓子

12月2日(土) 北区滝野川会館小ホールで、「2023日音協東京都支部コンサート・届けたい私の歌」を開催しました。会場には79名の方が来場。昨年より20名近く増え、初めてコンサートに来てくださった方も21名と、私たちの運動の広がりを感ずるコンサートとなりました。

当日体調不良のため1グループが欠席し、7グループが出演。第一部は都支部が音楽祭で演奏した『その旗は振らない』からスタート。続いて「メイウィズ」は安定したハーモニーを聴かせてくれました。シャンソンの「寺島博之」は体調が十分な中の出演でしたが、感動と歌い続けることの素晴らしさを伝えてくれました。3番手の「ういみん」はメンバーがアレンジした曲を演奏。飛び入りで

桑原隆文が出演。「みんなでおう」コーナーでは「武器を捨てて」を会場の皆さんと大合唱。「メロディーも歌いやすく、楽しかった」と好評でした。

第二部のトップバッターは、スポットライトの「おだかすや」。笠木博逸さんの遺作となつてしまった『戦争なんかするたに』他4曲を演奏。一人芝居の「おだかすや」は自作自演でコント『就業規則』を上演し、最後は「狭石啓子」の演奏でした。



おだかすや



桑原隆文



寺島博之

した。今色々と厳しい状況ですが、「すべての武器を歌声に変えて」これからも粘り強く楽しく歌い続けようと思います。

(狭石啓子)



ありがとう～ 歌い続けましょう!!



Song for Gaza 2023

構成：学園坂スタジオ

Moderato

G F C G G F C G G Dm7/G

レスタナに自由を

レスタナに自由を

レスタナに希望を

暴力反対 戦争反対

子どもを殺さないで 平和を守ろう かならず誓おう peace for-e-ver

暴力反対 戦争反対 子どもを殺さないで

平和を守ろう かならず誓おう peace for Ga-za

D.S.

著作権フリーです。皆でガンガン歌いましょう！

『song for Gaza 2023』

※パレスチナに自由を パレスチナに自由を
パレスチナに自由を パレスチナに自由を
※※※

パレスチナに自由を パレスチナに自由を
パレスチナに自由を パレスチナに希望を

暴力反対 戦争反対 子供を殺さないで
平和を守ろう 必ず誓おう peace forever
暴力反対 戦争反対 子供を殺さないで
平和を守ろう 必ず誓おう peace for Gaza

※パレスチナに自由を パレスチナに自由を
パレスチナに自由を パレスチナに自由を
※※※

パレスチナに自由を パレスチナに自由を
パレスチナに自由を パレスチナに希望を

以上が4回リピートされます。
楽譜は下記 URL QRコードからダウンロードできます。
<https://00m.in/KdzhV>



歌を創るということ④
日音協のホームページから、映像を観ることができ
ます。3面に概要を掲載しました。



一歩を踏み出そう
11月25日(土) 九戸教育会館にて
「はた音いわて」と題して岩手の働
く者のコンサートを開催しました。
コロナ下で取り組めなかった4年を
経て、どんなに小さい形になろうと
もまずは一歩踏み出そうと開催に向
けて考えてきたものです。これまで
活動が制限されてきたため、思うよ
うに練習もできなかった人も、一人
1曲でもいいから発表し、交流をメ
インにしていこうと計画しました。
自分の作った曲を発表した人、会
員以外の人とつながり発表した人、そ
初めてのギターに挑戦した人等、そ

それぞれの色を出した発表となりました。
また、シングアウトとして「オン・
ザ・ロード」「大きな橋」「レッツ・
シング・ア・ソング」を、聞きに来
てくれたみなさんと歌うことができました。
参加した人数が多かったとはいえ
ませんが、まず一歩を踏み出したコ
ンサート。他県の仲間に参加を募る
こともできませんでしたが、次回に
向けて「新しい曲を作ろう」「もっと
練習をしていい音を出したい」など
次へとつながる想いを膨らませたコ
ンサートとなりました。
(佐藤幸子)

**【歌を創るということ】④谷森駿さんに聞く
(インタビュー要約)** 2023 年 10 月 24 日**【イスラエル・パレスチナ戦争について】**

この 2 週間ほどショッキングな出来事が続いている、ハマスからの攻撃に対するイスラエルの反撃は、殲滅を掲げて大量虐殺にまで至っている。リアルタイムでその様子を見てきました。それに対して、世界各地でパレスチナ連帯のデモが行われているのは心強いが、現地のガザの現状は地獄のようなものだろう。この間、このことが頭から離れず、「歌を創る」というテーマでインタビューをお受けしたが、このことから無関係な話はできそうにもない、という感じです。

【幼少期から音楽に触れ、感じてきたこと、考えてきたこと】

小さい頃から楽器に触れ、ピアノも習い、学校でも歌ってはいたけれど、どちらかというと歌はあまり好きじゃなかった。習い事にも違和感があった。ピアノでもドラムでもやり出せば夢中になるんだけど、何か、途切れない疑問があった。音楽ってなんだろうと、ずっと考えていた。

10 代後半、20 代ぐらいになると、音楽には垣根とか壁があるんだ、音楽を一緒にやろうとしてもジャンルが違くと理解し合えなかったりトラブルや喧嘩にもなる。音楽は国境を越える、といわれるけど、そうじゃないんじゃないか、という気がしてきた。

【現在の日本の音楽について思うこと】

以前に日音協のセミナーでコードのことを話しましたが、結局はコード理論は教会音楽をベースとした音楽理論と言ってもほぼ間違いない。教会起源の合唱は、ジェンダー的に問題がある。コード理論はとても良くできているが、主要三和音というシステムには神と子と精霊というイメージがある。こういうことも意識しておいた方がいいと思います。

色々な宗教、文化がある中で、現在の日本は西洋音楽に偏り過ぎている。西洋音楽理論が絶対では全くないということ。

以前に日音協の新聞に書かせてもらったと思いますが、明治時代に日本にピアノが入ってくるまで、日本には西洋音階もコード理論もなかった。それで良かったのではないかなと思うぐらい、今はごちゃごちゃな状態だと思う。自身、沖縄にしばらくいて、沖縄の音楽に触れたことは大きかった。沖縄の三線にはコード理論はない。アフリカの方たちとの出会いも大きかった。残念なのは、パレスチナ、アラブの音楽表現はかじった程度の知識しかなく、もっと勉強したいと思っている。

【創作の原点】 ～音楽に潜む差別の構造～

日本語にはいろんなイントネーションがある。日本語じゃないと思える言葉もある。方言を田舎の言葉として見くだし、標準語を基本とするような考え方で今の音楽の問題と同じでしょう。自民族、または自身の属する文化という意味での自文化中心主義に陥ってはいないか。

どんなイントネーションも等しく同じなんだし、身分の上下を判断されるようなことではない。

このような日本の中での差別の感覚は、それが大

きく広がれば地球上の差別の構造となる。ヘイトスピーチも起きる。

音楽で何かできるとしたら、音を楽しむこと、偏狭なコード理論に捉われず、聞いたことのない音を怖がらずにじっくり聴いてみる、それを楽しんでみる、ということだと思います。

とはいえ、だからと言って、シオニストの方達が「シオニズム万歳」のようなうたを創って歌っていたとしたら、それは聞きたくない。難しい問題です。

【創作の原点】 ～オリジナリティーと独りよがり～

異文化、多文化共生とはよく言われるけど、現実的には難しい。でも、音楽を通して他者に関わっていくことはできるのではないかなと思う。

ただ、これは自分への戒めでもあるけど、曲を創るにあたって、いかに独りよがりにならないか、表現が客観的であり、多くの人が楽しみ共有できるかが、問題になってくる。なにが独りよがりかという尺度を測ることは簡単ではありません。オリジナリティーが高いほど独りよがりということもあるかもしれない。どのように他者に関わっていくのか、やはり非常に困難な問題です。

少なくとも「私たちは日本人です」というような強い思い込みをさせられていること、その強烈な幻想に気づくことは必要だと思う。言い換えれば「日本人」による自分中心主義、自文化中心主義ということだと思います。世の中がどんどん悪くなっている原因がここにあるような気がしている。

【創作の原点】 ～大事にしたいこと、課題にしたいこと～

肩書上、ピアニストとして活動してきちゃったけれど、ピアノという楽器はどこかおかしいんじゃないか、とずっと感じてきました。ピアノって西洋音楽のど真ん中の楽器。

トルコの音楽理論は、全音を 9 分割するような音階だったりします。人の声はさまざまな言葉を聞けば分かると思うのですが、本来はもっと繊細・微細で、半音階だけでは表現できないようなものでしょう。考え方によっては、たった 12 個の鍵盤などそういう意味ではメチャクチャ雑で乱暴な構造です。

以前面白い経験をしました。ピアノを教えていたとき、ピアノの音程どおりに歌を歌えず完全 5 度上で歌う子どもがいた。音痴でもなんでもなくてめっちゃめっちゃ耳がいい子なんだろう。その音程を「間違っているよ」とか言っちゃったら音楽嫌いになっちゃう。音楽をてらわす楽しむ子どもの様子にハッとさせられることは多い。

【日音協へのメッセージ】

パレスチナについて今一度考えて、今の現状を分かった上で、これをどうやって止めていこうかというとき、音楽で何ができて何ができないのかを考えて、一人で考えないでみんなで考えて共有して議論して、色んな知恵を出し合って、こんな曲にしたらどうだろうか。大きな人数で、色んな人が意見を出してやっていくことだと思います。一人でやっているともすると独りよがりになってしまう。そういった方向性でやっていければと思います。メッセージというか、是非一緒に取り組んでいきましょうとお伝えしたいです。
(聞き手：坂口美日)

「南風（ふえーぬかじ）」② 薩摩侵攻、琉球処分そして

『命（ぬち）ど宝』

沖縄県支部・平良昌史

はいさい！いい正月デービル。沖縄県支部の平良です。ロシアがウクライナへの侵攻、中東でのイスラエルとイスラム各国の紛争と、強国が周辺国を侵略したり少数民族を迫害したりと、紛争から戦争へと、住民虐殺と憎悪の連鎖が止まりません。沖縄はどうだったのでしょうか。

沖縄は、12 世紀に「琉球王国」として統一され海洋貿易で栄えました。その富を狙い薩摩藩が 1609 年に琉球に侵攻しました。そのときの国王が『戦世（いくさゆ）や済（し）まち みるく世（ゆ）ややがて 嘆（な）くなよ臣下 命（ぬち）ど宝』と説きました。沖縄のこころ『命（ぬち）ど宝』は民族が滅亡するのを防ぐために生まれました。

江戸時代には大和に裏から支配されてきた琉球は、明治初期の 1871 年に宮古島民 69 人が遭難し台湾に漂着、うち 54 人が現地住民に殺害されるという事件が発生し、この事件を台湾侵略の足掛かりにしようとした明治政府は琉球王国を琉球藩とし、1879 年（明治 12 年）「琉球処分」で沖縄県を強行設置、学校教育を手はじめに「皇民化教育」の徹底、言語、芸術、文化等の本土への従属、天皇制国家への忠誠を誓わせる政策を進めました。政治・経済の分野は、薩摩藩時代の諸制度を残し琉球差別と沖縄からの収奪を続けました。大和から搾取され差別され続けた沖縄。沖縄戦では本土防衛の捨て石にされ、戦後は本土から切り捨てられ、米軍統治時代に多大な人権侵害を受け続けた沖縄。琉球民族の怒りは島ぐるみ闘争となり、平和憲法の下に返ろうと本土復帰闘争となりました。

これ以上の米軍統治は無理と判断したアメリカは、日本政府と密約。沖縄は 1972 年に日本に復帰し沖縄県となりましたが、日米安保条約のもと、米軍基地は返還されず、県民が望まないまま、辺野古新基地建設が強行され、今また、本土防衛の捨て石として自衛隊の南西シフトが強行されています。大国に翻弄されながらもたくましく生きる私たちです。



「豊年祭」での平良さん(中央)



サンレシ
ラバイ
の皆さん

世界中が笑顔になりますように！

第15回 笑顔笑顔のクリスマスコンサート開催される

沖縄県支部・平良昌史

沖音協メンバーが事務局を担い、表記のコンサートを、昨年 12 月 17 日にパレットくもじ前のクリスマス広場で開催しました。沖音協が事務局を担い出演バンドを募集し実行委員会を結成、那覇市の後援と那覇市職労等の協賛団体からの広告料で経費を捻出して継続しています。

今回は毎年参加している団体および新規の出演者で 11 団体・個人が参加しました。那覇市社会福祉協議会と連携、歳末助け合いカンパの呼びかけを、各バンドの入れ替えの時間を利用して、歳末ボランティアに協力している団体に、募金の呼びかけをお願いしました。多くの皆様の協力のもと、今回も成功することができました。感謝申し上げます。にふえーでーびる。

継続は力です。連携する団体が増えていることにネットワークの広がりを感じています。いろいろなアイデアが浮かんできます。

絆を大切に、世界中に笑顔があふれるよう、出来ることを一つひとつ担っていきます。



ガールスカウトの皆さん



つながりを求めて 沖音協

日音協セミナー2024 開催要項（その2）

12 月号で日音協セミナー開催要項（その1）要旨をお知らせしましたが、12 月 20 日に「その2」が「日音協メーリングリスト」で配信されております。（A4 で 9 枚）

具体的なタイムスケジュール、参加申込書、ミニコンサート出演申込など掲載しております。

日音協 HP にも掲載しておりますので、ぜひとも多くの方の参加をお待ちしております。

参加申込締切は、1 月 20 日（土）13:00 です。

nichion@yomogi.or.jp

FAX 03-6369-3057

日音協福島県支部総会 そば祭りとお忘年会合わせて開催

12 月 13 日、郡山市あぶくま台の小島さん宅をお借りしての 2023 年福島県支部総会が開催された。

当日はこの 20 年そば打ちを続け、この時期大変忙しい高山さんがうった新そばを参加者と場所を提供していただいた坂口さんとお母さんをお誘いしてのそば祭りから始まった。高山そば名人は信州のそば粉を使った十割そばを午前中から準備。そばつゆもこだわりの自家製もので振舞われ、坂口さんやお母さんに用意していただいた天ぷらもいただいていたの遅めの昼食。小さいころから食べ過ぎて現在はアレルギーで食べることができない菅井君を除いて全員で大変おいしくいただきました。



高山さんの手打ちそばで腹ごしらえ

おなかを十分満たした後に総会を開催。全国総会の報告を受けて今年の活動経過を確認。長岡音楽祭典や 8 月から開始された原発事故汚染水放出を受け、いろいろな場面で私たちの音楽をアピールしてきた忙しい一年をねぎらい合いました。特に 3・11 ライブを今年始めて取り組み（福島県支部は後援）、市民運動の方々も含めた多くの人とのつながりも持つことができたことを実感した一年でした。

来年の沖縄音楽祭への取り組みも確認した後、『NO Nukes Fukushima 3・11 ライブ 2024』の取り組みについて活発に意見が交わされ以下を決定しました。

●前日の 3 月 10 日（日）に県内や郡山で活躍する音楽仲間の演奏と日音協福島・浪江町出身の井上さん（震災・原発事故被害者で、語り部として活躍されている）の話…郡山市中央図書館視聴覚室

●3 月 11 日（月）は二組の音楽ゲストを中心（新月灯火・川口真由美さん・VJkin）…郡山市駅前ライブハウス #9（詳細は決まり次第別途お知らせします）

総会終了後は東和町へ移動しての忘年会。宿泊場所は大規模に農業経営されていて、作業体験などの宿泊者が利用している農家民宿。大きい鳥エミューを 4 羽飼育されていた。飲み物持ち込み自由の言葉に甘え持ち込んだお酒と新鮮な野菜の料理で夜遅くまでの慰労会となった。最後まで面倒見ていただいた宿のおかみさんには大変ご迷惑をかけました（演奏を気に入って加藤さんの「キャベツ」の入った CD も購入する一幕も）。一昨年に創られた県支部作品集で曲を選びながらギター 3 本の伴奏付き、有り余るお酒とワインを堪能しながらの歌う会となり翌朝解散しました。

尚、総会で確認された新役員体制は支部長：二階堂、副支部長：大友、事務局長：菅井、事務局次長：南條で全員留任。総会参加者は県支部 7 名、オブで坂口さん。2024 年も宜しくお願いします。（南條善徳）



日音協秋田県支部総会 活動を見つめなおし頑張ろう

日音協秋田県支部第 37 回定期総会が、12 月 13 日、にぎわい交流館 AU において開催された。村岡会長が議長に選出され、総会の議事が進行された。冒頭村岡会長から、「この一年思うように活動を進める事ができなかったが、しっかり総括をした上で来年に向けて頑張っていくので、引き続きご協力お願いします」とあいさつがあった。

下総事務局長より議案の提案、咨沢会計担当から会計報告・予算案が読み上げられ、9 名の出席者により活発な議論が行われた。

主な発言としては、「会員や加盟労組への連絡・呼び掛け方法について」「秋田県支部 HP の情報更新について」などがあり、①「連絡・呼び掛け方法について」はメールで行っているが、既読されているかわかるようなメーラーを使うか、電話での連絡も検討する②「支部の HP について」は HP 管理者の藤原さんより、古い記事がずっとそのままになっている。皆さんからの写真や記事を頂ければ新しい情報として掲載していくので、ご協力お願いします、と協力の呼び掛けがあった。また、予算案の中で補足説明があり、会議開催時、遠距離からの出席者に対し交通費を払っているが、その額について今後皆様に納得して頂けるものにしていきたいと提案があり、了解頂いた。最後に役員の追加で、藤原さんを事務局員とする事を了承して、総会を締めくくった。

総会後場所を居酒屋に移し、音楽祭当日に出来なかった反省会を行い、総会とは別のメンバーも合流し、交流を深めあった。（下総大）



飲んで歌ってご苦労様（農家民宿で）

水道橋だより

▼今回も基本 10.5 ポイントで編集しましたが、原稿も多く 10 ポイントのところもあります。▼またスペース不足で、茨城県支部報告がこの欄となってしまいました。申し訳ありません。(佐藤)

▼日音協茨城県支部は 12 月 16 日から 17 日にかけて、日立市で支部合宿を開催、17 日には支部総会も開催しました。日程の一部だけ参加した人も含めて 7 人が参加しました。合宿では連合春闘集会などの曲の練習に加えて、初めて男声 4 部合唱にチャレンジしました。▼支部総会では、第 55 回はたらくものの音楽祭、連合茨城集会など、日音協中央の各種活動、各サークルの活動、組織強化と会員の拡大について議論、提案通り活動方針を決定しました。市川信義会長、金田光弘事務局長(いずれも再任)などの役員を選出して総会を終了しました。(松本敏之)



歌の力が物語るもの 125

茨城坂うた行動 12/8 (495回) 報告 Rico

【参加者】鈴木、イサさん、スーさん、モッチー、周平さん、達哉、森 計7名

インフルエンザで一週間寝込んで、今日からやっと行動開始。経産省前の行動から坂を上ってきた守屋さんは、体調が悪いとのこと、そのま

ま帰った。先週は風邪のころをおして茨城坂で歌ってくれていたと報告にあった。ありがとう。さあ、フェンスに横断幕を取り付けだし、歌い始めよう。

まずはスーさんの『羽ばたけ憲法9条』を鈴木さんがリクエスト。小型アンプを持っ

て来てくれていて、マイクをまわす。続けて『あたりまえの地球』を皮切りに、鈴木さんの歌詞カードに沿って順々に歌う。『私たちの暮らしては私たちが決める』『明日を殺すな』『前へ』『あなたに届けと』『双葉の秋』。

原子力規制委が、柏崎刈羽原発の運転禁止命令の解除に向けて検討しているとの報道があった。『北の脅威とか煽るけど、そっち側にこそ原

てしゃがめば助かるの?』等々、話し始めると止まらな

茨城で市役所のイベントに車で突っ込んだ男性は24年前の東海村JCO臨界事故で被曝した被害者だったのだと、スーさんとイサさんが教えてくれた。年齢から見ると、20代のおわり頃に事故にあった計算だ。若くて人生楽しい盛りから、からだの不調を抱えることになったのか。そしてその因果関係を認められなかったのか。『原発さえなければ』『この人の人生違っていただろうね』とスーさん。本当に、『原発さえなければ』の言葉が重い。

周平さんが到着。今日のメインはパンフルート。『ハーモニカと逆で、左側が高い音になるからややこしい』と言いつつながら吹き鳴らしてくれた。

周平さんも体調がイマイチ

だという。今年の風邪は長いらしい。みんな気をつけて、無理しないで歌い続けようね。

どん行

(174)

飯島貞親

にしろ人間の都合だ▼人間社会で消えない、肌の色で差別するのと通ずるような気がする。

▼人里に近づいたヒグマが時に人を襲い農作物を荒らす。駆除をした自治体には非難の声が押し寄せる。札幌市内で1頭の母グマが駆除された際、市には批判の声が殺到した。『母グマが駆除されたということ、心を痛める人間もいる。人間の心を傷つけないようにクマを駆除しない対策をしてほしい』『人に何も危害を加えていない母グマは駆除しないで、山に帰してあげていただけたらと無念でたまりません』。1カ月半ほどの間に寄せられた意見は650件を超え、一日だけで240件ほどに上る日もあったという▼駆除も保護もどちらの言い分ももっともだが、被害に遭ったかどうかで意見は分かれる▼ところで、これが哺乳類でなく爬虫類や毛虫、ゴキブリだったらどうだろう。鳥インフルエンザでは何万羽もの鶏が殺処分された。狂牛病の時はどうだっただろう。可愛そうというよりコワイだろう▼日本において自治体によるペット(犬猫)の殺処分頭数は少なくなく、飼い主側のやむを得ない事情から自治体で引き取る場合が多い。どっち